

住民自治にも地域の課題解決にも なくてはならない町会、自治会の発展を

日本共産党東京都議会議員団
アオヤギ有希子（八王子市選出）



○アオヤギ委員

次に、町会、自治会の支援についてお伺いします。

住民自治にも地域の課題解決にも、町会・自治会はなくてはならない役割

東京都、特別区長会、市長会、町村会が設置した東京の自治のあり方研究会が二〇一五年に発表した調査結果では、東京都三十三区市町村の町内会、自治会加入率は、二〇〇三年から二〇一三年の十年間で約六一%から約五四%へと減少していることが明らかにされました。

また、防犯、廃棄物処理、防災等を課題として考えている人が多い一方、これらの分野では、町会、自治会による活動が評価されております。また、東日本大震災を契機に、住民同士のつながりが大切だと自覚された人が増えていると報告しています。

近年の大規模災害、また、昨年来のコロナ禍で、町会、自治会の役割は再注目されていると思います。住民自治を進める上でも、また、地域の課題解決のためにも、町会、自治会はなくてはならない役割を果たしています。

一方、その課題が重くなっており、一部の役員の方々に負担が集中し、敬遠される傾向もあります。ただ、区市町村の助成制度が、例えば加入した住民の分だけ防災備品の助成を行うなど、加入されないともらえない助成金もあり、多くの方に加入してもらわないと対策を十分にできないという実情もあります。

ワクチン接種のネット予約支援など、活動を発展

私は、八王子市内のUR館ヶ丘団地というところに住んでおりますけれども、その自治会は、電動自転車を使った団地タクシーを団地内で運行するなど、度々マスコミにも取上げられています。

このコロナ禍で、八王子市は、ワクチン接種予約の混乱が当初ありましたが、この自治会をはじめ、多くの自治会、個人の方が、インターネットを使えないお年寄りに対し、接種予約の支援を自主的に行い、接種が進められました。この館ヶ丘団地自治会では百九十人以上の予約を取ってあげたそうです。

この自治会は、初めからこういう身近で親身な支援ができたわけではありません。高齢化が進み、

八王子市内でも一、二を争う状況で、高齢化率五〇%にも達しています。

約十年前、休眠状態だった自治会を再結成して、東日本大震災の直後から自主防災組織を結成するなど、徐々に活動を発展させてきました。

町会、自治会の支援は区市町村でも行っていますが、支援と同時に、防犯灯の管理など、役所から様々な活動を求められている場合も少なくなく、自治会役員の成り手がいないなど、深刻な状況もあります。

コロナ拡大防止の助成は2858町会・自治体が利用

東京都は、町会、自治会に対して、地域の底力発展事業助成という事業を行っています。

まず最初に伺います。

地域の底力発展事業助成における助成対象事業数を、コロナ前の二〇一九年度と二〇二〇年度について伺います。

○馬神都民生活部長 令和元年度は五百八十五件、令和二年度は二百六十一件でございます。

○アオヤギ委員 コロナ前は五百八十五件で、令和二年度は二百六十一件であったということで、コロナで活動が大きく制約されていることが補助件数の低さに影響しているということです。

昨年は、緊急事態宣言中の総会の実施がオンラインや書面で行われる町会、自治会も多数あったというふうにいわれております。活動をストップせざるを得ない中、支援を求める多くの町会、自治会がありました。

都は、緊急的に昨年度、新型コロナウイルス感染拡大防止普及啓発事業助成を実施し、感染症対策に係る経費など、町会、自治会に助成をしました。町会役員の検査費用や衛生用品を住民に配布するなどに使える助成金でしたけれども、助成した件数をお伺いします。

○馬神都民生活部長 二千八百五十八件の助成を行いました。

○アオヤギ委員 自治会総数がおよそ九千自治会あるそうですから、約三分の一が助成を受けたということです。この感染症対策の助成金は各地でとても喜んでいてというお声も聞きましたけれども、都にはどんな声が寄せられているのか、お示してください。

○馬神都民生活部長 この事業を行うことで活動を再開させるきっかけとなったなどの声をいただいております。

○アオヤギ委員 大変歓迎されていたということでもあります。コロナが終息するまではまだ時間がかかり、引き続き感染症対策が求められています。地域の底力助成は、感染症対策としてPCR検査などの検査をしてよいということになっています。こうしたことも一層周知して、活動の支援をしていただきたいと思います。

デジタル活用や会館の耐震化への支援、地域の底力事業の拡充を要望

東京都町会連合会では、町会、自治会加入促進へのインセンティブとなる支援をと求め、そして、地域の底力助成の継続とデジタル活用支援を使いやすく改善し、Wi-Fi機器のレンタル期間の延長などを求めています。

また、町会、自治会会館の耐震化も大きな負担となって、もっと多くの自治会が使えるようにと要望されておりますけれども、この制度の周知徹底と、地域の底力事業の上限額を引き上げるなど充実

していただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○馬神都民生活部長 年度当初に区市町村を通じて周知を図るとともに、東京都町会連合会の常任理事会等でも周知を図っております。

今年度は、デジタル活用区分の新設、見守り活動の助成率を十分の十とするなど、拡充を行っております。

○アオヤギ委員 今年度も充実を図ったということで、重要ですけれども、町会、自治会の声も踏まえて、一層の支援拡充を要望しておきます。

プロボノ事業は大きな効果、利用自治会の拡大を

また、プロボノ事業も重要です。

私の自治会で活動が発展したのは、外部の力を取り入れ、団地内にある高齢者見守り相談施設と共に連携して、団地タクシーの開始や、近隣の大学のボランティアサークルとの連携で企画を催したりということを実践してきました。

その中で、都の地域の課題解決プロボノプロジェクトにも取り組んできたのが大変効果があったと役員さんはいっておられます。

このプロボノ事業は、地域の課題を解決するために、都が募集したプロボノワーカーさん四名程度が、数か月にわたり町会の課題を洗い出し、具体的にどうやるとよいかなどを示して、最後に発表会を行うという事業です。

館ヶ丘団地自治会がこの事業に約一年間取り組んで、最後に発表する会にも、数年前、私も住民としてお聞きをしましたが、プロボノワーカーさんは、職業も、住んでいる地域も、年齢も、性別もばらばらで構成され、そのときには、会報を、自治会に入ったらこういうメリットがあるということを具体的に示した方がよいというふうな指示で分かりやすいと思いました。こうした指摘された点について自治会では改善をして、自治会報も現在は充実をして、分かりやすい内容になっています。

また、ワクチン接種の予約についても、いち早く住民に予約支援をしていることを知らせ、多くの方に支援をしました。それまで高齢化が進む団地で、施設入所などで毎月会員が減る状況だったのが、現在では、少しずつではあるけれどもプラスになっているということでした。

このプロボノ事業について、実施した自治会では大変効果があったということですが、多くの自治会が利用してほしい制度です。今後どのように実施する自治会を増やしていくのか、お聞きをいたします。

○馬神都民生活部長 事例勉強会や成果報告会を開催し、実際に活用した町会、自治会の成果を広く周知することで活用を促してまいります。

○アオヤギ委員 この館ヶ丘団地自治会では、たまたま役員の方がこうした事業があることを知り、申し込んだのが経過です。

多くの自治会の方々に、外部の力を借りて自治会の活動を発展させられることをお知らせいただき、支援を拡充していただくことを要望して、質疑を終わります。

(都議会速記録に見出しをつけたものです。)